

第 42 期第 4 回理事会議事録

日 時：2022 年 9 月 16 日（金） 13 時 00 分～17 時 30 分

会 場：日本気象学会事務室（Web 会議方式）

出席理事：佐藤 薫，橋田俊彦，青柳曉典，荒川知子，池上雅明，稲津 將，植田宏昭，
齋藤篤思，佐藤正樹，高谷康太郎，竹見哲也，竹村俊彦，中村 尚，橋本明弘，
早坂忠裕，堀之内武，三好建正，以上 17 名（理事数現在 20 名）

出席監事：吉田 聡

その他の出席者：勝山税，斎藤誠一郎，萬納寺信崇（事務局）

議 題

1. 協議事項

1) 会員の新規加入等について

新入会員 32，退会 7 を全会一致で承認した。2022 年 9 月 14 日現在，会員数 3,381 名で個人会員は 3,188 名。

2) 第 42 期第 3 回理事会議事録の確認

議事録案について，全会一致で承認した。

2. 報告事項

1) WG からの報告

「天気」と関連する会員サービスの検討 WG

・・・以下の内容が報告され，理事会名での学会だより案が確認された。

- ・ 3 回の WG 会合を開催（8/10，8/22，9/12）し，現在の「天気」発行形態の問題点の整理，「天気」や会員サービスの将来像等について議論した。
- ・ 冊子体を維持することによる制約や，オンラインサービス充実の可能性なども踏まえ「将来的に『天気』は電磁的方法での配布を基本とし，オンライン機能を活かしたコンテンツの提供など会員サービスを一層充実させる」との方針を定めること、2023 年は移行措置として冊子体を必要とする会員には無償提供を継続すること、また、これら方針に関する会員からの意見を収集して丁寧に検討・作業を進めること、を会員向けにお知らせする理事会名での学会だより案を作成した。

2) 業務執行理事の報告

① 庶務担当執行理事・・・以下の内容が報告された。

・ 掲載許可

1) 申請者：丸善出版株式会社 堀内 志保

掲載元：岡本幸三、別所康太郎、吉崎徳人、村田英彦(編)「静止気象衛星ひまわり
8 号・9 号とその利用」気象研究ノート No.238 (2018)

掲載図：第6章 雲プロダクト（著者：中島 孝、石田春磨、吉田 良、毛利浩樹、永尾隆）75ページ 図6.1閾値テストの組み合わせ方の模式図. (左)カスケード型. (右)多数決型

掲載先：

書籍名：「リモートセンシング事典」（発行予定2022年10月頃）

編者名：日本リモートセンシング学会 編

項目名：第3章 地上系とシステム処理（運用側）第7項 地上処理：雲晴識別

著者名：中島 孝（東海大学 情報理工学部情報科学科 教授）

2) 申請者：株式会社日本入試センター（サピックス小学部）

掲載元：日本気象学会編「気象科学事典」（1998年10月2日）466 ページ 藤田スケール

掲載先：理科6年冬季講習入試実戦演習 01MU（小学6年生対象、塾内教材演習問題の資料として掲載。B4版、5,000部発行予定、2022年12月発行予定）

・後援名義等使用依頼受付

1) 名称：日本機械学会 No22-107 講習会 混相流入門 ― 実例に学ぶ複雑流動現象の基礎と計測/数値計算技術

主催：一般社団法人日本機械学会流体工学部門

期日：2022年10月11日

会場：オンライン開催

名義：協賛

2) 名称：第22回こどものためのジオ・カーニバル

主催：こどものためのジオ・カーニバル企画委員会

期日：2022年11月5～6日

場所：大阪市立自然史博物館（ネイチャーホール）

名義：後援

・寄附者リスト（2022.7.27～2022.9.15）

なし

② 会計担当執行理事・・・以下の内容が報告された.

・2022年7、8月分の収支及び現預金検査報告

・流動資金（運転資金）の月ごとの推移

・夏季特別セミナー補助金申請（再）

③ 2022年度「堀内賞」、「正野賞」、「山本賞」の受賞者決定投票結果について

3) 委員会報告

講演企画・・・以下の内容が報告された。

- ・2022年度秋季大会の準備状況。
- ・2023年度春季大会のスケジュール。

天気編集・・・以下の内容が報告された。

- ・Vol. 69 No. 8, 9, 10 (2022年8, 9, 10月)の掲載記事と, Vol. 69 No. 11, 12 (2022年11, 12月)の予定記事。
- ・掲載料免除申請1件。

気象集誌編集・・・以下の内容が報告された。

- ・Vol. 100 No. 5 (2022年10月)の掲載論文と, Vol. 100 No. 6 (2022年12月)の掲載予定論文。審査中の論文リスト。
- ・論文賞とハイライトについて, 論文賞(年2編)をハイライトとしてきたが, 今後は論文賞とハイライトを切り離し, ハイライトを各号に掲載することで論文誌におけるハイライトを強化する。また, ハイライトされたもののうち上位2編を論文賞とする。これに伴い, 気象集誌論文賞受賞者選定規程を改訂した。
- ・1段組の議論を進めている。SOLAと歩調を合わせて対応する。

SOLA 編集・・・以下の内容が報告された。

- ・論文の投稿・公開状況
- ・2022年7~8月の掲載論文: 8編
- ・2023年からPDF版を二段組から一段組に変更する。

学術・・・以下の内容が報告された。

- ・日本学術会議における「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募の内容の審議。
- ・2014年にまとめた「日本の気象学の現状と展望」の更新について。

地球環境・・・以下の内容が報告された。

- ・一般向けの気候変動の仕組みについての教材を作成する方向で活動する。書籍は考えず, Webページを想定。現在は国立環境研究所のページがあるが, 10年前のもので更新予定はないとのこと。クラウドファンディングで資金調達を検討中。

気象災害・・・以下の内容が報告された。

- ・気象災害特設ページ「令和4年夏の豪雨」の開設(8月22日)。
- ・日本学術会議公開シンポジウム/第14回防災学術連携シンポジウムを10月22日の防災推進国民大会2022(神戸市)において, 「自然災害を取り巻く環境の変化~防災科学の果たす役割」をテーマにオンライン開催する予定。

教育と普及・・・以下の内容が報告された。

- ・気象サイエンスカフェ, 夏季大学, 女子中高生夏の学校の実施報告。
- ・WXBC版ジュニアセッションに6校が参加(8/19)。

- ・公開気象講演会は線状降水帯をテーマに11月13日にオンラインで開催予定。
 - ・課題：各支部の情報収集のために、北海道、九州支部以外の地域の委員を探す。
- 国際学術交流・・・以下の内容が報告された。
- ・第3回小倉特別講義は2023年秋季大会（仙台）で実施する方向で調整中。講師のBin Wang教授（ハワイ大学）は承諾済。
 - ・日中韓気象学会（ACM）について、3学会の関係者会合をオンラインで実施（7/28）。次回第3回のホストは中国気象学会であること、2017年以降開催されていないことも踏まえて、会合では以下の2点が承認された。
 - ・今年度は中国気象学会がホストでオンライン会議を企画。11月の終わり頃に1日で調整中。
 - ・2023年10月30~31日に釜山で対面会議を開催する。韓国気象学会は来年60周年で、それに合わせて記念イベントも企画しているので、うまく組み合わせたい。
- 電子情報・・・以下の内容が報告された。
- ・事務局からの会員管理等に関する要望対応のための検討を行った。
 - ・学会サイトの利用規約・プライバシーポリシーを確定し、セキュリティ強化と利便性の向上を図るための最終テストを実施した。
- 人材育成・男女共同参画・・・以下の内容が報告された。
- ・男女共同参画学協会連絡会関連：連絡会への加盟について。女子中高生夏の学校に参加。シンポジウム（10/8 予定）への参加について。2022年加盟学協会活動調査（アンケート）。
- 広報委員会設立準備・・・以下の内容が報告された。
- ・青柳，荒川，高谷，橋田，早坂の各理事が設立準備の検討に参加（佐藤理事長はオブザーバ参加）することとなった。

4) 理事長報告

- ・衛星地球観測コンソーシアムが動き出した。早坂理事がコアメンバーとして参加している。
- ・気象学会も参加している、日本学術会議「持続可能な発展のための国際基礎科学年2022（IYBSSD）」連絡会議の活動として、11/5にサイエンスアゴラ2022（科学技術振興機構主催）において公開講演「私たちの地球はどんな惑星か-科学を混ぜて地球を探る」が開催予定。

5) その他

- ・学会改革に関する意思決定方法について、コンサル業者を活用することを議論した。その結果、委託内容の仕様書案を作成し、業者に見積もりを取った上で、次回以降あらためてコンサル業者活用の議論を継続することとなった。

3. ブレーンストーミング

- ・前回の議論「新規会員の開拓と現会員のつなぎとめ」についてポイントを確認した。

以上について、議事録を作成し、理事長および監事が記名押印する。

2022年11月21日

公益社団法人日本気象学会

理事長 佐藤 薫

監事 吉田 聡